

# いしかわ

Vol 30

2008 Spring

# NPO ニュース

**特集** いしかわNPOニュース企画委員座談会  
さらなる誌面の進化でNPOへの  
支援をより広範囲かつ強力に。

[ちょっと気になる、いしかわのNPO]  
**NPO法人 Team DiET**

●NPO法人格取得カルテ (4)

●いしかわのNPO

NPO法人 スポーツクラブ ブラッツうちなだ

発達障がい児を持つ親の会 どんぐりの会

NPO法人 金澤町家研究会

加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」

つながる、  
ひろがる、  
ふれあう。

県からのお知らせ

NPO・ボランティア情報

助成金ニュース

●リーダーズVOICE

NGO・NPOネットワークとやま (NNNT) 代表

能登 貴史 さん



石川県

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>

# さらなる誌面の進化でNPOへの支援をより広範囲かつ強力に。



いしかわNPOニュースの第1号が発行されたのは、平成13年1月。それから7年を経て、今号でちょうど3周年となります。NPOが自主的かつ自律的に活動できるよう情報収集や情報発信の面で支援するとともに、NPO活動に対する県民の理解を深めてもらう主旨で、いしかわNPOニュースは発行されてきました。平成10年にNPO法が施行されたから丸々3周年を迎えた今年、NPO活動は一つの節目を迎えたと言えます。そうした中、今後、いしかわNPOニュースの誌面づくりはどうしたらいいか、現在、本誌企画委員を務める青海康男、久保信二郎、福多唯、森山奈美のNPO関係者4氏に話し合ってもらいました。



**【出席者】**  
 いしかわ市民活動ネットワークセンター事務局長 青海 康男  
 ごまつNPOセンター代表理事 久保 信二郎  
 子どもの虐待防止ネットワーク石川 福多 唯  
 川への祈り実行委員会事務局長 森山 奈美

## ◎第15号が誌面のターニングポイント

**青海**●まず、第1号発行時からずっといしかわNPOニュースに関わってきた私から、現在に至るまでの感想や私見を述べさせていただきます。いしかわNPOニュースの誌面は、平成16年春季号(第14号)までが、第1期という感じなんです。NPOそのものについての説明であったりとか、NPOに関わる人たちの対談であったりとか、NPOはどこへ行くのか、何を期待されているのだろうかという、いわば啓発の内容で14号まで来ています。で、15号から団体紹介が入ってくるんですね。これが、新しい第2期のスタートかなと思います。具体的にどういふNPOが石川県内で活動しているのかを見せる一方で、その時々に関心を集めていた話題の特集が入っています。また、地図でNPOの所在地を示しており、これもある意味、保存版的なものかなと思います。2ページ見開きの地図に団体の問い合わせ先も併記しており、いしかわNPOニュースを綴ってファイルしておけば、あとで必要な時に探しているNPOを簡単に見つけられるようになっています。そして、その流れが現在の号まで拡大しながら来ているというのが大雑把な流れになると思います。月イチの発行なら、その時々タイムリーな情報を発信できますが、いしかわNPOニュースは年4回の発行ですから、保存版的な誌面にせざるを得ません。時とともにすぐ消えていくネタでなくて、あとに残っていく内容にしようとしていました。

**森山**●私はその節目の15号から企画委員に加わりました。

NPOを  
 分野ごとに分けて  
 特集記事に  
 (森山)



**青海**●じゃあ、森山さんがこの流れを変えたんだ。

**森山**●そうなんですかねえ。でも、15号の新メンバーになった編集会議に初めて出席した時に、誌面全体の構成などをホワイトボードにいろいろ書いて検討しました。その年の特集のシリーズとして、「協働ってなんだろう?」を4号連続で連載したり。その当時のマイブームでしたね、協働が。まあ、いまもって「協働ってなんだろう?」とは思っています(苦笑)。いままでの号でこれは役立つなと思ったのは、自己チェックみたいのあったでしょう?

**青海**●ああ、自己診断ね。第20号に載せた「NPO自己評価をやってみよう」と、第21号の「自己評価からみるNPOの分類」。

**森山**●自分の団体を客観的に評価できて、よかったですよ。

**青海**●読み物というより、団体運営の上でこれが役立つという、「お役立ち系」の記事になることをねらっていましたから。

**森山**●読者へのサービスとして、今後も継続的にやっていてもいいですね。

**青海**●シリーズでね。読者参加型の誌面は、やっぱり認められるのかなとは思っています。普通なら読んだらおしまいじゃないですか。でも、こうした企画は楽しめるところがあります。

**久保**●見たら、やってみようという感じがしますね。

**青海**●参加型の誌面づくりは続けていきたいですね。

## ◎創刊以来の記事をまとめて発刊しては

**森山**●今まで載せてきた誌面を、一冊の書籍にまとめてみたらどうでしょう?常に手元に置いておけるようなものを。そうしたくなる記事が、バックナンバーを通して見るとちょこちょこありますよね。例えば、毎号掲載していたNPO紹介の記事とか。これをまとめて、石川県のNPO総覧にしてしまおうとか。

**青海**●そうだね。巻末や折り込みで、NPOの所在地が入った県内の地図「いしかわNPOマップ」を付けてね。

**森山**●あったら、すごくうれしくない?多分、読者でバックナンバーをきちんと保存している人は少ないでしょう。そうしたものを県では出しにくいでしょうから、民間のNPOがその本を販売する収益事業にしてしまうという手もある(笑)。

**久保**●一冊にまとめてみると、これまで見えてなかったことが見えてくるかもしれませんね。

**福多**●なるほど。私は、過去にこれだけのストックがあるのだから、掲載される記事や内容と関連した情報や説明が、バックナンバーの何号に載っていますよと注釈をつけるなりして、希望者には「あいむ」から該当記事を「いつでもFAXします(郵送します)」というサービスを検討してはどうかと思っていました。

久保●検索できるようにするといいいですね。

青海●Webでそういう機能を高めてもいい。

福多●もう一つ、直接的な誌面づくりからは少し離れるのですが、読者には文章説明だけで理解できる人と、講座などで言葉で聴くほうが理解しやすい人がいると思うんです。いま、月に一度、水曜日に講座を開いていますよね。プチセミナー。ああいうのを平成20年度も行って、いしかわNPOニュースの発行に合わせて、特集なり連載なりをより詳しくお伝えする講座を行うのはどうでしょうか。掲載された誌面を資料として講座で活用できます。誌面に表やグラフなどを載せたときには、その深い意味や背景についても説明ができ、読者にとってはニュースを受け取るだけでなく講座に参加することで疑問を尋ねて理解を深めたり、交流を持つ機会にもなりそう。

◎読者層をもっと広げてもいいのでは

久保●誌面を通して見て感じることですけれど、誌面の内容がNPOに人を呼び込むような啓蒙的な一面と、既にNPOに取り組んでいる人を対象に内容がどんどんプロフェッショナル化、専門化してくる一面の二面あり、今のいしかわNPOニュースの記事は、プロ向きの後者の方に少しずつ寄ってきていますよね。

青海●流れを元に戻しますか？

森山●県からNPOへの委託事業の成果や結果を載せていたこともありましたね。

読者層を広げ、NPOに関心を  
持つ人を増やしたい  
——(久保)



青海●パターンが決まって、あんまり面白い誌面にはなりません(苦笑)。

久保●いしかわNPOニュースは中身が濃くて、一生懸命がんばってつくっておいでるなどは感じます。で、こういう記事に関心を持たれて読む人はどういう人かなと想像するわけです。するとまず、NPOや市民活動に関心を持ちはじめた方。あと、前向きに活動に取り組んでいる人が割と占めていると思います。7年間発行され続けてきたわけですが、読者対象の層を少し広げるか、ずらしてもいいのではないかと感じます。市民活動に関わっているけれども、沈滞して後ろ向きになっている人。脈はあるけど強い関心は持っていない人。そういう人たちを掘り起こすための、NHKの「プロジェクトX」ではないけれども、市民の手で何か変化を起こしたぞ、という実例の記事を出していくようなシリーズを加えたらどうかと思いますね。われわれ民間の手で何か変化を起こしたぞ、と。表紙もその記事のタイトルをどかんと大きくして表現するというか。

青海●タイトルの面白さで引っ張る感じですね。

久保●そうそう。例えば「市民」といったような固い言葉や専門用語は使わずに、普通の人が普通に手にとりやすくなるようなキャッチコピーを決めて、読んでくれる層を増やしていかないと、底辺の底上げができないような気がして。特に僕ら加賀の方ではそこに課題があって、人がいないんですよ、NPOに積極的な人が。これが慢性化してて、やってる人はいくつものNPOに所属している。僕みたいに(苦笑)。

青海●表紙はデザイン的な部分で変化はつけられるでしょう。半面、「わたしたち24時間元気で頑張っている」と紹介ができるような事例は、実際のところはそんなにならないような気がします。

久保●県内にあればベストだろうけど、なかったら県外でもいいので、読んで「おーっ」と感動できるような、ワクワクするような事例を集めてくる。そんな作業があってもいいかなと思います。もちろん、大変ですけどね。

福多●子どもが学校がらみでボランティアに行ったり、学校にいろんな人を呼んで体験活動をしたりしているんです。そのような行事も上手に活用して取り入れながら、子どもがNPO活動に関心を持ちながら育っていくところを記事にしたいですね。子どもって自分の写真が載るととても喜び、親もそれを見たがるでしょう？ すると一般の人がNPOニュースを手にしてくださる(笑)。今まで、大人の記事ばかりでしたし、子どものコーナーがあってもいいかな。

久保●確かに子どもはあまり出ていないですね。

福多●別にNPOは大人だけがするものでもないし、年齢

市や町のNPO支援の現状を取り上げては

(青海)



問わず誰でもできるというメッセージを出すこともできます。学校にあたってみれば、いろいろな取り組みをしていますよ。

◎市や町にクローズアップした記事を

青海●皆さん、さらに誌面を進化させないといけないという意識は共通していますね。私も、もっと誌面をこうしたらいいと思うことがあと二つあって、一つ目は、一年間使えるくらいのアンケートを取って、その内容を活用して「がんばれよ」とメッセージできる特集をやっていく。もう一つは、年4回の発行だから、石川県を4区域に分けて、市民や町民向けのきちとした活動支援をしている市町の担当課取材して、予算も含めて大PRしていく。市や町が出れば、読者にとってもっと身近な話題になるんじゃないかな。

久保●市町の記事にするのは、面白いかもしれないね。

青海●NPOに関わる読者に「こんなことやってるんや、こっちは」と思ってもらえれば。

久保●市や町に対する刺激の効果もありそうですね。

青海●市町とNPOの協働を促進する武器になるかな。本来は、このいしかわNPOニュースと同様のものが各市町から発行されてもおかしくないんですけどね。

森山●そうですね。NPOにとっては、自分たちの活動をPRするのがすごく大事で、でもそのための編集の人材や予算、時間がとれない点が課題になっているところが結構あると思うんです。事業そのものはやってるんだけど、あまり発信されてないとか。それを、いしかわNPOニュースで支援します

よ、ということできないかなあと。現状でも、NPOを紹介する記事があるのですが、“名刺”みたいなプロフィール表という感じで、もっとアクティブな話が載るようになればいいなと。できれば空白の誌面1ページをNPO側に自由に作ってもらって…。ただそういうのは、いしかわNPOニュースという紙媒体よりも、おそらくWeb上の方がいいかなとは思っています。

青海●定期的に紙媒体で発信していくより、Webに載せていく方がいいよね。そもそも、紙媒体用のPRをNPOが自力で全部作るのは大変。いしかわNPOニュースはプロの人にデザインなどを発注しているから。

森山●あとやれるとしたら、環境とか福祉とか、特集を分野

誌面に子どもが登場する記事があってもいい  
——(福多)



ごとに分けて、深掘りする記事。置かれている現状の背景もしっかり記しながら、同じ分野で活動している他の人たちの刺激にしたいですね。その号ごとに読者ターゲットを絞ることになるけど。

福多●最後にもう一点。「あいむ」に入った新刊図書の案内を小さいスペースでいいから入れませんか。「あいむ」は、NPOに関する有用な書籍が充実していて、いいですね。700冊以上あるそうですから。いろいろと勉強ができます。

(事務局より)  
企画委員の皆様から大変貴重な、かつ具体的なお提案をいただきました。  
今回の座談会の趣旨を今後の紙面作りには是非役立てていきたいと考えています。  
ありがとうございました。(了)

## NPO法人 スポーツクラブプラッツうちなだ

〒920-0271 河北郡内灘町鶴ヶ丘2-308-1  
TEL/FAX 076-286-1231  
Eメール info@platz-u.jp URL http://platz-u.jp/

### 設立の経緯

スポーツを取り巻く環境が変化中、「スポーツ振興基本計画」に基づき、それまで行政主導であった内灘町のスポーツ活動を住民主導で支えていこうと、平成14年8月の設立検討委員会から取り組み、平成17年4月にこの組織を立ち上げました。組織は、体育協会15団体、スポーツ少年団23団体、各種サークル56団体に加入協力いただいております。平成19年7月から町総合体育館と総合グラウンドの指定管理者として管理業務もしています。名称とロゴは、町民からの一般公募で決まりました。プラッツとはドイツ語で「広場」などを表し、スポーツを通じ町民の憩いの場となるようなクラブづくりを目指し、名付けられました。シンボルマークは人が大地で躍動的に運動しているイメージです。



### 活動の内容

「楽しもうよスポーツを!輝かそう自分を!」をキャッチフレーズに、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境を、私たち住民自らの力で育てていこうという理念の下、スポーツを通じて皆さんが気軽に笑顔で集える場づくりをモットーに取り組んでいます。セミナーとしてキッズサッカー、初心者テニス教室、初心者弓道教室があり、イベントでは、春と秋にハイキングで山歩きを、夏には

町民夏祭りにかき氷の出店参加を、冬には親子スキー教室を開催しています。また、文化的交流の場として、親子お魚料理教室、加賀野菜料理教室も開催し好評をいただきました。その他年に数回指導者研修会を行ったり、会員特典として第2・4日曜の体育館開放や第3日曜のプール開放をしています。



写真は、体育の日に開催したスポーツフェスティバルの様子です。オープニングには講師をお招きしてウォーキング講座を行い、その後各団体からご協力を得、日頃の成果を発表していただいたあと、自由参加で色々な種目を体験する機会を作りました。

### 収入額の構成

- |             |            |
|-------------|------------|
| ①寄付金(0%)    | ④助成金(19%)  |
| ②会費(36%)    | ⑤受託事業(31%) |
| ③自主事業収入(4%) | ⑥その他(10%)  |

## NPO法人 金澤町家研究会

〒920-0831 金沢市東山2-1-7  
FAX 076-229-7831  
Eメール kanazawa-machiya@nifty.com  
URL http://machiyaiken.exblog.jp/

### 金沢から町家が消滅する!?

金沢市内では昭和20年以前に建てられた歴史的な住宅が消滅しようとしています。5年間に約1,400棟が取り壊されて無くなりました。建物の老朽化や相続等の問題から取り壊され、空き地や駐車場への転換が進んでおり、かなり深刻な問題です。

このような危機的な状況を認識した金沢市と市民有志が、平成17年6月に研究会「金澤町家研究会」を立ち上げました。町家に関心のある一般市民、大工・職人、建築士、まちづくりプランナー、大学生、研究者など100名余りで構成されています。



金澤町家で講義を楽しむ会

### こんな建物に価値あるかいね?

平成17年度は、金澤町家を取り巻く状況を明らかにするために、町家居住者の訪問調査を行いました。これから財産処分を迫られる高齢者には相談相手、住み続けたい方には修復方法を、売却や賃借を希望される方には入居希望者を、それぞれにこまめな対処と、現実的



量を叩いて埃落とし

なくみが求められていることがわかりました。

### 町家をもっと市民に知ってもらおう

研究会2年目は、活用と情報発信を中心に活動しました。町家活用モデル事業として2軒の空き家を借り受け、「お掃除ワークショップ」「障子貼りワークショップ」などを経て居住できるよう整えました。「寺町の町家」は、基本的には地域住民が寄り集まるコミュニティ・スペースを提供することを目指し、遊び場の提供や話し合い、お茶会、ミニコンサート、アート作品展示等を開催しました。一方の「新町の町家」では、体験宿泊してもらったり、セミナーを連続的に開催したりしました。

### 町家に関する相談相手になろう

3年目の今年は、「町家修復・活用セミナー」を5回シリーズで開催し、町家の修復事例の紹介、耐震補強のあり方などを紹介しました。町家に住んでいる方、住みたい方などが集まってこられました。

### 収入額の構成

- |             |            |
|-------------|------------|
| ①寄付金(0%)    | ④助成金(25%)  |
| ②会費(2%)     | ⑤受託事業(73%) |
| ③自主事業収入(0%) | ⑥その他(0%)   |

## 発達障がい児を持つ親の会 どんぐりの会

TEL0761-47-2070  
携帯TEL 090-9762-8881  
Eメール honoka-momoka-asoka@ezweb.ne.jp

### 設立の経緯

どんぐりの会は発達障がいの人達が全ての人々と共存できる「心のバリアフリー」を目指すとともに、子育てや教育について共に学び、子供達の健やかな成長を目指すことを理念に活動しています。軽度発達障がい(広汎性発達障がい・自閉症障がい・アスペルガー障がい)・学習障がい(LD)・注意欠陥多動性障がい(ADHD)の子供達は知的・肢体的に障がいがなく、一見普通の子に見えるのですが、日常生活・学習面において様々な困難があります。しかし、周囲に発達障がいと理解されにくく「子供がふざけている」「親の躾が悪い」と誤解を受け、劣等感・孤立感や自己評価の傷付きで親や子が悩んでいるのが現状です。

この様な困難を持っている子供達の親の声が集まり、平成19年9月に小松市内「こまつNPOセンター」を拠点に活動が始まりました。

### 活動の内容(平成19年度)

- ・月1回の定例会
- ・会報の発行
- ・勉強会(サポートブック・サバイバルカードの作成)
- ・クリスマス会
- ・講演会(今回は当事者の体験談とアドバイス)
- ・発達障がい支援センターからのキャラバン隊によるコミュニティサイト利用の説明と操作実習

### アピールしたいこと

どんぐりの会は会員制ではなく、役員が中心とした参加型の会で1回300円の会費とし、現在20名(親・教育・福祉)の方が参加しています。会の雰囲気はコーヒーとお菓子を頂きながら、笑い時に涙しながら子供達の成長に必要な事を話し合い、勉強しています。定例会では、託児があり参加者が当番制で子供と接しながら共通理解する様に努めています。今後は地域や他団体・行政と連携して「心のバリアフリー」ができる様にしたいです。



### 収入額の構成

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ①寄付金(0%)    | ④助成金(0%)  |
| ②会費(100%)   | ⑤受託事業(0%) |
| ③自主事業収入(0%) | ⑥その他(0%)  |

## 加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」

〒920-0842 加賀市熊坂町八28-3  
「蘇梁館」内  
TEL 0761-72-5350  
URL http://tabunka.exblog.jp/

### 設立の経緯

加賀市には、国際交流協会がありません。しかし、国際交流に関わる個々の団体や、個人の活動はいくつもあります。そこで、国際交流・地域交流・多文化共生の情報を集めたり、また発信するネットワークセンターをつくることで、市民ひとりひとりが、国際感覚を深めるとともに、地域ぐるみの交流や、相互理解、そのための人材育成を推進していく目的で当会が発足しました。

### ネットワークセンターとしての蘇梁館

外国人に、日本や日本人を知ってもらうためには、先ず文化交流が挙げられます。「たぶんかネット加賀」のネットワークセンターを、日本文化を学ぶ人たちが交流や発表の場として利用している「蘇梁館」に併設することで、自然な形で日本文化と国際交流をつなげられないでしょうか。この建物の持ち主であった北前船主が、日本各地を北前船でつなぎ、各地の文化や富を加賀の地にもたらしたことも、何かの縁でしょうか。



蘇梁館



第1回「国際交流と多文化共生を考える勉強会」

### この場をお借りして

地域の国際交流・多文化共生を進めるためには、ひとりよがりな活動をしてはいけないと思っています。例えば、地域に住む外国人との交流を考える時、外国人という見方ではなく、同じ地域に住む住人として考えれば、地域のまちづくりに関係されている方々のお力が必要となるのです。

さらには、外国から来たお客様を迎えるということでは、加賀市の観光に携わっていらっしゃる方や、その国との交流を行っている団体。日本文化を外国人に紹介するためには、地域の文化活動をしていらっしゃる方。国際交流の実践的なアドバイスは、各地の国際交流協会。市民活動に関しては、各地の市民活動団体。そして、行政。個人のボランティアの方々。このように、さまざまな分野の方のご助言、ご指導、ご協力をいただければと思います。よろしくお願いたします。

### 収入額の構成

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ①寄付金(1%)    | ④助成金(95%) |
| ②会費(3%)     | ⑤受託事業(0%) |
| ③自主事業収入(1%) | ⑥その他(0%)  |

# ちょっと待って、「事業なしの報告書!」解散手続きのすすめ。

NPO法が施行され今年の12月で10年になります。全国では法人数が33,000団体を超え、石川県では平成20年2月末で236団体が認証されています。しかしながら設立当時の熱い想いを、思うように活動として形にできず、開店休業状態の休眠法人もあるようです。NPO法上定められた、年に一度の「事業報告書」の提出は行っているものの、記載内容は「事業なし」を毎年繰り返すだけで、法人格取得を後悔している団体には、このシリーズ最終回として、解散の手続きをお勧めします。ここでは財産のない小規模団体で、清算のための費用は全て個人負担の場合の解散事例についてご紹介します。



※財産があったら定款に定めた所に帰属させる手続きをとりま。  
※「目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能」も解散事項の一つですが、所轄庁(石川県)に「解散認定申請書」を提出して「認定」を貰う必要があります。

**1 要チェック!**

「印鑑届出書」を法務局で書くので、「法人印」と、清算人の「印鑑証明」1通。それと同じ「実印」を持っていきましょう。

債権者に債権行使の請求を申し出るよう「官報」に2か月に少なくとも3回「公告」をします。石川県での取扱窓口は「うつのみや本店4階」(金沢市柿木島)です。一行22文字で2,854円。2回目から前回の掲載日が入ります。

**(例)**

解散公告第一回

当法人は平成十九年十二月三十一日開催の総会の決議により解散したので、当法人に債権を有するものは、本公告掲載の翌日から二箇月以内にお申し出下さい。右期間内にお申し出がないときは清算から除斥します。

平成二十年一月十日

石川県 浪速市 香坊町 丁目 番 〇 番 地

NPO法人 解散手続き研究会

清算人 活動 無男

以上で終了です。残余財産のある団体は定款に定められたものに財産を譲渡する必要があるため、この例は参考にならないので、ご注意ください。 NPO法人-ねっと事務局長: 青海康男

注目!

ちょっと気になる、いしかわのNPO

Vol.16

## NPO法人 Team DiET

### 生活習慣病の予防に役立つノウハウを発信

#### インターネットを利用して健康情報を公開

日本では、生活スタイルの急激な変化により、糖尿病や高血圧といった生活習慣病を患う人が、近年、増加傾向にあります。この生活習慣病は、普段の食生活の改善や適度な運動によって予防することが可能です。

そこで、金沢大学医学部附属病院第1内科のメンバーで主に構成される特定非営利活動法人Team DiETでは、一般の人々が健康的な生活を送るための情報を発信しています。

主な活動内容として、年に3~4回、無料のフリーペーパーを発行しています。『バランス生活』と名付けられたこのフリーペーパーでは、糖尿病の新たな検査法や健康レシピ、効果的な運動法



などが紹介されています。最新号は金沢大学医学部附属病院の受付や待合室などに置かれ、バックナンバーはTeam DiETのホームページで閲覧できます。

同時に、医療に携わる人を対象とする活動にも取り組んでいます。例えば、個々の医療従事者が日々の診療の中で得た生活習慣病に対するノウハウや経験を募り、集めた情報をTeam DiETのホームページで公表し、医療従事者の知識の共有化と向上を支援します。

#### 院内の有志が集まり活動をスタート

Team DiETが結成したのは平成10年のこと。「病気を発症する前段階である未病の状態でもっと目を向けることがある」と考え、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師らが、勤務を終えた後や合間にミーティングをするようになったのがきっかけでした。



定期的なミーティングを開き意見交換

その後、ミーティングでまとめた情報を、インターネットなどを活用して公開するようになり、現在では県内の自治体や医師会からTeam DiETメンバーへの講演依頼が寄せられるようになっているほか、県外で開催されるフォーラムなどに招かれることもあります。

昨年8月には、ホームページ上にネットラジオを開局。週に1度、『聞くバランス生活』を配信しています。パーソナリティを薬剤師や栄養士らが務め、それぞれが専門とする分野に即した健康法をアドバイスします。今では、「nifty」の日本語健康カテゴリの検索ランキングでトップになるほど好評です。

#### 特定健康診断制度の開始を前に、組織を法人化

今年4月から、40歳~74歳までの男女を対象とした特定健康診断(特定検診)が実施され、メタボリックシンドロームや生活習慣病予備軍と診断された人々に対する保健指導がスタートします。Team DiETは昨年11月、法人格を取得し、より実践的な対応ができる準備を始めました。



Team DiETメンバーによる勉強会も開催

健康診断の結果、多くの人が保健指導を受けることになると予測されているにもかかわらず、患者を指導する立場にある医療現場の準備は十分ではありません。「法人化によって、社会とのつながりを強くするとともに、同じ目的を持ったNPOと協力し、全国の医療現場をサポートしていきたい」とTeam DiET副理事長の栗田征一郎さん。

最近では、曲に合わせて楽しく運動するための音楽アルバムを制作中です。さらに、音だけでなく映像も一緒に楽しめる番組をWeb上で放送する計画を立てています。栗田さんの「企業にもメタボリックシンドロームの予防策を提供する機会を設けるなどして、生活習慣病にかかる人の増加を抑えていくことが目標です」とのことばに、今後の活動への期待と力強さを感じました。



メンバーが回診。患者さんの声を聞く

〒920-8641 金沢市宝町13-1  
金沢大学医学部附属病院内  
NPO法人 Team DiET  
TEL 076-265-2246 FAX 076-254-4250  
URL <http://www.teamdiet.jp/>

#### 「いしかわのNPO」掲載情報募集のお知らせ

県内のNPO・ボランティア団体の活動内容等の情報を発信するコーナー「いしかわのNPO」を設けています。団体の活動の情報を発信する場として、ぜひご利用いただければと思います。

- 掲載参考項目
  - ・団体名、団体住所、電話番号、FAX番号、E-mail、URL
  - ・設立の経緯、活動の内容(必ずご記入ください)、会費、利用料金、困っていること、アピールしたいこと等
  - ※600~800字程度にまとめてください。
- 掲載料/無料

- 寄稿方法/郵送、FAX、メールいずれも可
- その他/活動風景などの写真も併せて送付いただければと思います(電子データ可)。
- 送り先/石川県NPO活動支援センター  
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館2階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559  
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp 担当/長谷川

# INFORMATION

## 県からのお知らせ

### 平成20年度当初予算におけるNPO活動促進関連事業

- (1) NPO活動交流サロンの開催**  
「NPO活動交流サロン」にて、プチセミナー(活動事例紹介・情報交換会)を開催し、NPOの立ち上げ・仲間づくりにつなげます。「NPOよろず相談」も定期的に行います。
- (2) NPO起業実践講座の開催**  
NPOの立ち上げ・運営に関する基礎知識を実践的に習得する講座を開催します。  
＜内容＞  
NPOの運営基礎、活動資金の調達、NPO会計・税務、自治体・企業との協働など
- (3) 社会参加マッチング事業**  
NPO・ボランティア団体の活動内容や、起業、就農などに関する情報を紹介し、社会参加へのきっかけづくりにつなげる。  
＜内容＞  
記念講演、参加者とNPOとの個別面談、NPOの活動紹介、NPO支援相談など
- (4) NPOマッチングボードの設置**  
スタッフ・ボランティアを求めているNPOの情報を掲示板やホームページに掲載します。
- (5) 災害ボランティアコーディネーター養成研修会の開催**  
災害時に被災地において、被災者ニーズとボランティアを調整するコーディネーターを養成します。  
＜内容＞  
災害ボランティア活動と現地本部の役割、ボランティア現地本部設置・運営シミュレーションなど
- (6) 災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修会の開催**  
コーディネーターを対象に、様々な災害、あらゆる場面でのコーディネート能力向上を目的に研修を行います。
- (7) 市町災害ボランティア担当者等研修会の開催**  
市町・市町社会福祉協議会の災害ボランティア担当者等を対象に、災害時のボランティア活動に対する理解促進などに関する研修を行い、災害時における迅速なボランティア受け入れ・被災者ニーズの掘り起こしのための体制づくりを目指します。
- (8) 災害時の地域連携の促進**  
防災訓練等へのコーディネーターの参画を促進することにより、行政、社会福祉協議会、町内会など地域関係団体との連携体制を構築し、地域における災害対応力の強化を図ります。
- (9) その他の事業**  
NPO活動支援センターの運営や、いしかわNPOニュースの発行(年4回)についても継続することとしています。

#### お問い合わせ先

石川県県民文化局県民交流課  
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地  
TEL 076-225-1365 FAX 076-225-1363  
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

### 特定非営利活動法人の事業報告書提出について

特定非営利活動法人は、特定非営利活動促進法(以下「法」という。)第29条第1項の規定により、事業報告書など法定の書類を事業年度の初めの3ヶ月以内に提出することになっています。

#### 【参考】法定の提出書類

- ①事業報告書等提出書、②事業報告書、③財産目録、④貸借対照表、⑤収支計算書、⑥前事業年度の役員名簿、⑦前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿
- ⑧定款(記載事項に変更があった場合に提出)
- ⑨定款変更認証書の写し(定款変更認証を受けた場合に提出)
- ⑩登記に関する書類の写し(定款変更にもなっていない場合に提出)

あった場合に提出)

※提出部数は①のみ1通、その他の書類については各2通です。

#### お問い合わせ先

石川県NPO活動支援センター  
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館2階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559  
URL <http://www.ishikawa-npo.jp/index2.html>  
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

## NPO・ボランティア情報

### ボランティア情報「ユークンかわらばん」のご案内

石川県社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティア募集やボランティア・福祉関連イベントの情報を掲載した「ユークンかわらばん」を毎月発行しています。掲載する情報を募集しています。ボランティアを募集したい方、イベントの案内をしたい方は、ホームページよりご入力ください。

- 発行日/毎月15日
- 配布先/ボランティア希望者、学校、企業、福祉施設などホームページからの閲覧も可能です。
- 掲載費用/無料
- 募集内容/ボランティア募集、ボランティア・福祉関連イベント案内、助成金案内など上記に該当するものであれば、NPO法人、ボランティアグループなどの団体は問いません。(ただし、政治、宗教、営利目的のものは除く。)
- 掲載方法/ホームページ内の情報入力コーナーよりご入力ください。(締切毎月10日)入力された情報はユークンかわらばんとホームページの両方に掲載します。4月より入力コーナーをリニューアルいたします。

「ユークンかわらばん」は希望者に毎月無料で提供しています。ボランティアをしたいと思いますとお考えの方もぜひご連絡ください。

#### お申込み

#### お問い合わせ先

石川県社会福祉協議会ボランティアセンター  
TEL 076-234-1616 FAX 076-222-8900  
E-mail ivc@isk-shakyo.or.jp  
URL <http://isk-shakyo.or.jp/volunteer/>

## 助成金ニュース

### リユースPC寄贈プログラム

- 寄贈目的  
日本国内で、高齢者等の介護を中心に活動をしている非営利団体を対象として、その活動の情報化の支援を目的とする。
  - 寄贈対象団体  
以下のすべての条件を満たす団体に限定して頂きます。  
・高齢者等の介護を中心に活動している非営利団体で、比較的規模が小さい団体(任意団体、家族会を含む)  
・経済的な理由などから、団体活動の情報化がなかなか進まない団体  
・社会的課題の解決のため、寄贈PCを有効に活用して下さる団体  
・PCの基本操作、OSおよび Officeのアクティベーション(認証)ができる方が団体内もしくは近くにいらっしゃる団体
  - 応募受付期間/平成20年3月1日～4月10日
  - 申請方法/当寄贈プログラムでは、エントリー制を採用しています。当WEBからエントリー後、申請書類をダウンロードし、それに必要事項をご記入の上、他の必要資料と合わせて事務局まで郵送にてご提出いただけます。
- ※第43回エントリーの有効期限は、平成20年2月23日から4月10日までです。エントリーされていない団体の応募は無効となります。

- ※ 第43回以外の申請書では、応募できません。
- ※ メールアドレスのない団体は、FAXや郵送でもエントリーができます。詳しくは下記までお問い合わせください。

#### お申込み

#### お問い合わせ先

特定非営利活動法人イーパーツ  
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1-17-4  
メゾクロニア307  
TEL& FAX : 03-5481-7369  
URL : <http://www.eparts-jp.org>

### 全労災地域貢献助成事業

- 助成対象となる活動
  - 1.環境分野
    - ・地域の自然環境を守る活動
    - ・循環型地域社会を作るための活動
    - ・地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動
  - 2.子ども分野
    - ・親子の居場所づくりなど子育てを支援する場の活動
    - ・子どもの居場所づくりなど子どもの健やかな育ちを支える場の活動
- 助成対象団体  
日本国内を主たる活動の場とするNPO法人、任意団体等(NGO、ボランティア団体等)
- 助成内容  
助成総額は環境分野2000万円、子ども分野1000万円の総額3000万円(上限)を予定しています。「環境分野」「子ども分野」のいずれかに応募いただけます。応募は1団体あたり1案件のみに限定させていただきます。
  - 1.環境分野 一般助成 1団体に対する助成上限額:30万円  
特別助成 1団体に対する助成上限額:100万円
  - 2.子ども分野 1団体に対する助成上限額:100万円
  - 3.助成申請の対象となる費用について  
物品購入費、旅費交通費など活動に直接係る経費で、人件費(謝金等含む)も対象です。(上限額あり)
- 応募受付期間/平成20年3月27～4月10日

#### お申込み

#### お問い合わせ先

・環境分野の応募要項・申請書入手先  
特定非営利活動法人地球と未来の環境基金(EFF)  
全労済地域貢献助成事業事務局<環境分野>事務局宛  
TEL 03-5298-6644/FAX 03-5298-6635  
(平日10時～17時 土日祝除く)  
E-mail [grant@eco-future.net](mailto:grant@eco-future.net)

・子ども分野の応募要項・申請書入手先  
社団法人日本フィランソロピー協会  
全労済地域貢献助成事業事務局<子ども分野>事務局宛  
TEL 03-5205-7580/FAX 03-5205-7585  
(平日10時～17時 土日祝除く)  
E-mail [grant@philanthropy.or.jp](mailto:grant@philanthropy.or.jp)

### 藤本倫子環境保全活動助成基金

- 助成対象事業  
助成の対象は、日本国内における自発的で、継続的な環境教育や地域における環境保全などの活動(業として行う活動は除きます)で、次に掲げる活動です。
  - (1) 実践活動(観察会、リサイクル、植栽・環境修復等)
    - ・会員以外の一般市民の協力、参加が得られ、効果が十分期待できること。
  - (2) 普及啓発活動(環境講座・教室の開催、パンフレットの作成、広報誌の作成、教育教材の作成等)



3月に入り急に春らしくなりましたが、黄砂と花粉が飛び交い、外出も億劫になりがちです。地球を取り巻く環境問題も大きく取り上げられる季節ではないでしょうか。

今号の特集でのご意見をふまえ、できる限り皆様の知りたい情報をお伝えできるような誌面づくりを目指したいと思いますので、ぜひご意見をお聞かせください。

- ・会員以外の一般市民を対象とし、啓発効果が十分期待でき、広報資料・図書等の配布方法等が適切であること。
- (3) 調査活動(野生生物の調査、水質等の調査・分析、環境情報の収集・提供等)
  - ・学生・生徒や一般市民の参加が得られ、啓発に資する内容であること。(専門家・会員のみで一般市民等の参加が少ない活動は除きます)

- 助成対象団体  
助成申請者は、(1)(2)の条件を満たすものとします。
  - (1) 日本国内において、環境教育や地域の環境保全活動を行う営利を目的としない団体または個人。
    - ・団体は、主として一般市民によって構成されており1年以上の活動実績があること。
    - ・個人は、環境カウンセラーで、環境教育や地域の環境保全活動などを積極的に実践していること。
  - (2) 日本国内の団体又は個人からの推薦があること。(推薦者は、公共機関、環境関係団体等の役職者及び環境問題に造詣が深い学識者又は関連分野の専門家等。ただし申請団体内部者を除きます)
- 助成額/1活動30万円を上限とします。
- 応募受付期間/平成20年3月3日～4月15日

#### お申込み

#### お問い合わせ先

財団法人日本環境協会「藤本倫子環境保全活動助成基金」運営管理委員会事務局  
〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9  
ダヴィンチ神谷町2F  
TEL 03-5114-1251/FAX 03-5114-1250  
URL <http://www.jeas.or.jp>

### 「川に学ぶ」活動助成

河川・海岸等の水辺空間に関して、市民の方々の関心を高め、「川に学ぶ」社会の実現を促進するため、市民団体等が河川・海岸等の水辺で行う自然体験や環境教育等の活動等に対し、その費用を助成します。

- 助成対象活動
  - (1) 河川・海岸等の水辺や、水辺に関わる地域をフィールドとして行う自然体験や環境教育等の活動。
  - (2) 河川・海岸等に関係するセミナーやスクールの実施、情報の提供、水辺を活かしたまちづくり(以下、「かわまちづくり」という。)に資する検討・啓発等の諸活動など等の活動。※河川清掃のみを目的とした活動等は対象となりませんので、ご注意ください。
- 助成対象団体/市民団体、学校等の非営利団体による公益的な活動を対象とします。
- 助成額/1活動あたり10万円を限度とします。
- 応募受付期間/平成20年4月11日(必着)

#### お申込み

#### お問い合わせ先

「川に学ぶ」活動助成事業 事務局  
財団法人リバーフロント整備センター 研究第一部  
〒102-0082 東京都千代田区一番町8番地 一番町F5ビル  
TEL 03-3265-7121/FAX 03-3265-7456  
E-mail [H20manabu@rfc.or.jp](mailto:H20manabu@rfc.or.jp)  
URL <http://www.rfc.or.jp/>

### INFORMATION 利用案内

- 本誌は6月、9月、12月、3月の年4回発行する予定です。情報掲載希望の方は、おのおの前月の15日までに、事業の概要(企画書、チラシ等)を郵送、FAX等でお送りください。(その際には、「いしかわNPOニュース」掲載希望とお書き添えください。)
- FAXの場合は、送信後必ず着信の確認をしてください。
- 政治、宗教、営利を目的とする活動は掲載できません。
- 誌面の都合により、お寄せいただいた情報を掲載できない場合があります。また、事前に掲載の可否の連絡はいたしませんので、ご了承ください。
- 掲載料は無料です。
- 送り先: 石川県NPO活動支援センター  
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館2階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559 担当/長谷川



石川県NPO活動支援センター  
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1  
石川県広坂庁舎2号館2階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559  
URL <http://www.ishikawa-npo.jp>  
E-mail [npo@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:npo@pref.ishikawa.lg.jp)

富山県で、NPO間のコミュニケーションの促進を図る貴重な役割を果たしているのが、NGO・NPOネットワークとやま（通称:NNNT）です。今回は、その代表を務める能登貴史さんに、NNNTの活動内容やNPOが置かれている現状などについて考えをうかがいました。

## NPOのネットワークに串を通す

NGO・NPOネットワークとやま (NNNT) 代表 能登 貴史さん

### 民設民営のNPO支援組織として成し得ること

——立ち上げは2000年からとか。

**能登** NPOが市民活動としてどれだけいいことをしていても、一般の人々の認知度は低いのが実情です。でも、エコバッグのような小さな行いが全国に広がる可能性もあります。県内の多くのNPOが参加するネットワークをつくることによって、何か大きなムーブメントを起こすことができないか、また個別のNPO同士が気軽に支援しあえる仕組みができないか、との考えから、NNNTが発足しました。設立総会には約200人が参加し、コアメンバーは20人くらい。合議制で運営されています。

——主な活動の中身は。

**能登** 毎年8月1日に「ネットワークパーティー」を開催するほか、メーリングリストを利用して各NPO間の情報交換や人手の募集、手助けの申し出などを行っています。特に会費などは取っておらず、メーリングリストの登録のみです。

——法人化されていないそうですね。意外です。

**能登** 法人化すると常時お金を管理する事務が発生するほか、組織のフックを重くしてしまう面もあるので、手掛ける事業はプロジェクト制にして、そのプロジェクトごとに人を集め、費用を決算する仕組みにしています。

——能登さんは発足から数えて5代目の代表にあたりとか。

**能登** 2000年の設立時からメンバーとして参加していて、昨年8月に代表に就任しました。本業は、パソコン技能の講習会を開催し、デジタルデバッド（情報格差）の解消をミッションとするPCTOOL（ピースツール）というNPO法人の代表理事です。ITが得意分野でもあるので、自分の代表任期中は、IT系の支援に力を入れるつもりで、ブログの作り方や更新の方法などを既に指導しています。掲げるミッションや活動の性格が異なるNPOの集まりに、何か1本串を通して、目的を明確にしたイベントも実施しています。今年1月には広島・長崎テーマにした上映会を開き、平和活動に取り組むNPOや関心を寄せるボランティアの人たちに来ていただきました。



講習会では、多くのボランティアが能登さんの話しに聞き入った

——この場合の「串」は、「平和」ということですね。

**能登** そうです。せっかくNGO、NPOのネットワークが出来ているのですから、さまざまな角度から串を通して、その連帯の中から社会に対してインパクトの



NNNTに参加する災害ボランティアネットワークの活動目を迎えました。

### NPOの淘汰の時代がやがて来る。ミッションや事業のブラッシュアップ

ある事業を仕掛けていきたいですね。NPO同士のコラボレーションも生まれてくるはずですよ。

——社会に対し、NPOのやっていることを訴求することが大切になってきますね。

**能登** 「広報」が市民活動の一番弱いところでもあります。その点、ITと市民活動は親和性が高い。ITを活用した情報発信に力を入れ、市民活動の社会的認知度をもっと上げていきたいと考えています。その一環として、NPOの活動を動画で発信するシステムをいま構築中です。NPOの活動現場に、NNNT事務局のスタッフがビデオカメラを持って取材に行き、編集してその動画をとやまボランティアサイトにアップロードします。

——富山で中間支援組織を必要と感じられていますか。

**能登** 必要だとは思っています。でも、やるからには腹をくくってやる人間が必要です。NNNTの中でも当然、議論はありますが、結論は出ていません。

——今年、NPO法が施行されて10年目を迎えました。

**能登** NPOは現代社会に変革をもたらすイノベーターとしてあるべきですし、それが使命です。ミッションがブラッシュアップされ、それがきちんと広報されれば、おのずと人が集まり、資金も集まります。そして、NPOが活性化し、社会が変わっていく。また、自分たちの力で社会が変化していくのをリアルタイムで見られる面白さがあります。NPOにとってこの10年は、インキュベート（孵卵）の期間でした。僕はもう次のステップに入っていると思っています。ミッションを深め、社会にアピールできれば、社会的な地位も向上します。半面、NPOだからと信頼される時代は終わりました。これからはNPO間の競争が始まり、淘汰もありえる、質が問われる時代と言えるでしょう。

## P R O F I L E



### 能登 貴史さん（のとなかみ）

1962年富山県井波町（現 南砺市）生まれ。大手ファーストフード会社を退社後Uターンし、2000年にパソコンの初心者向け講習などを手掛けるNPO「PCTOOL」をスタート。2001年には法人化し、ITコンサルタントとして、パソコンのトラブルサポートやホームページの開設といった市民活動団体の情報化を支援している。また、2003年から2005年までNNNTの事務局長を務め、昨年8月から代表に。  
【お問い合わせ】NGO・NPOネットワークとやま事務局  
〒932-0231  
富山県南砺市山見1714 NPO法人「PCTOOL」内  
TEL&FAX.0763-82-5760  
E-mail info@pctool.jp